

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878



2009.09.01

昭和二十七年に兵庫県の
 農村に生まれ、攻本貞男は
 「昔あそび図鑑」で昭和三十年代後半



2009.09.01

この小さな溝の中に水草が生えて、サリガキやドクショウがいた。子供達が水草を取り除き掃除していた。うれしかった。そして生懸命タモで魚をさがしている。

の水草びの思い出も次のように書いてある。
 ホクの田舎は殆どの家庭を農家であつたため周囲にはきれいな水の豊富で、川や溝が至る所にあつた。もちろん農業用の用水路もあつたが、それ以外に山の湧き水で自然にできあがったものもある。石や土で仕切られた透明な水の底には鮮やかな緑の水草が生え、終年魚が泳いでいた。毎日、毎日、学校が終わるとバケツをかついで川へ行く。誰れも先んじていると、さきで見て取り石や泥や草を研ぎてきて川をせきとめる。こんな風景は見られなれば、今日までにもこんな風景は見た。これだからね。

「帰って来たがキ大将」



2009.09.01

子供達が自転車に乗ってきた。最初は、このまうな光景を見ることができない。少し大きな子が先頭に立って指示している。小学校六年生だ。みんな途中でタモで魚をさがしている。中には水草が多くなっている。これから水路を通って矢田川に流れる。ヒントも得た。必ずこれが獲れる。矢田川はきれいな川になる。水草が必要だ。



2009.09.01



2009.09.01

昔は子供たちはみんな表で遊んでいた。この種は、ボートでの役割としている。



2009.09.01